

図版①



図版②



図版③

永和九年歲在癸卯暮春之初會
宋拓祁蘇米蘭亭序 異林玉題

図版④
富岡鐵齋刻図版⑤
内藤湖南刻図版⑥
久野錦浦刻

図版⑦



図版⑧



「落ち穂拾い記」⑨

『宋拓神龍本蘭亭序』④

全七種を収めたこの『宋拓神龍本蘭亭序』が、取り上げられている蘭亭資料をさがすと簡単に発見できた。一九七三年が「癸丑」の歳にあたり、東京や関西で蘭亭展が開催されたりして多くの著作が出されていた。それらを繰ってみると、『書論』誌(編集者・杉村邦彦)の第三号「特集・王羲之と蘭亭序」の巻頭口絵部分に、「内藤湖南藏 王虛舟補神龍本」として巻頭と巻末補書部分が、見開き二ページに大きく取り上げられていた。その号の論考中に、須羽源一氏の「大正癸丑の京都蘭亭会について」があり、口絵写真図版二十頁として各種の蘭亭序に関する資料が示されている。大正二年(1913)が「癸丑」の歳にあたり、京都で盛大に蘭亭会が開催された。その内容が当時の大阪朝日新聞付録の四月二十日版に一面を用いて大きく紹介された(図版①)。須羽氏は、当時の出品目録とその大阪朝日の記事を紹介しながら、当日の未曾有の展覧品の全貌を解説されていた。その中で日についたのが、大阪朝日新聞誌面の中央にしめされた蘭亭序四本の写真である。その解説には、当日、各界から多くの王羲之に関する資料が展覧された。展蘭は七種に分けられ、その第一は、蘭亭序であり、その数は百種以上にもおよんでいたが、その中から宋拓四件、第一に大中国の学者・羅振玉所蔵の『游丞相旧定武本』(図版⑤)と『開皇本』(図版④)が、特に優れたものであり、大きくひと目を引いたとして紹介された。入手したこの『宋拓神龍本蘭亭序』は、大正蘭亭会展に出品され、優品として話題になつた四本の中の内藤湖南旧蔵本であった。これには驚い

于會稽山陰之蘭亭脩禊事

也 羣賢畢多彌長咸集此地

図版④

宋拓開皇本蘭亭序

羅振玉題



永和九年歲在癸卯暮春之初會

于會稽山陰之蘭亭脩禊事

也 羣賢畢至少長咸集此地

図版⑤

宋太蘭亭五字木損本

春草堂藏

篆泉題跋



永和九年歲在癸卯暮春之初
于會稽山陰之蘭亭脩禊事
也 羣賢畢至少長咸集此地
有峻領茂林脩竹又有清流激
湍山

宋九之不全本之春草堂藏

春草堂藏

篆泉題跋



た。更に解説には、戦後刊行された平凡社の『書道全集』卷四に、見開きで大きく収録されている。全く気がつかなかった。内藤本以外の三本は、前から博文堂からコロタイプ印刷で出版され、影印本を入手していた。しかし、家蔵に帰した『宋拓神龍本蘭亭序』の影印本には、それまで出会うことはなかった。二年ほどして、偶然に香港の古書店で、『宋拓神龍本蘭亭序』の博文堂の大正二年の影印本を入手した。その後、この博文堂本と原本を仔細に検すると、原本にある内藤湖南の跋文の末に、「久野錦浦君既に此の本を得て」とあり、また博文堂影印本には羅振玉の大正元年の跋があり、終わりに「羅振玉に質す」の語が見られる。これらのことから、蘭亭展当時、大阪朝日新聞誌の記事は誤りである。当時亡命していた羅振玉の蔵本を入手した「久野錦浦」なる人物を、須羽源一氏は岡山の玉島の素封家と紹介されているが、詳しいことは不明である。その後、大阪の府立図書館で、当時の大阪朝日新聞付録の四月二十日版のコピーを入手して新聞を読むと、一面の記事の周囲に蘭亭序が、分割されている。巻頭の「永和九年」(図版⑥)は、富岡鐵齋翁であり、末の「亦將有感斯文」(図版⑦)は、内藤湖南である。その中の「暮春之初」「雖趣舍萬殊靜躁不同」(図版⑧)「其致一也」三印は、「備後久野錦浦」の刻とある。先に言及した「石鼓文」「黃庭經」を始め、飯田(高島屋)旧蔵書画目録のある部分が、久野錦浦の旧蔵と推測される。相当の趣味人と考えられるが、何かの折に調べてみたい。家蔵に帰してからは、『宋拓神龍本蘭亭序』(全七種)の中の、明の豊坊刻『神龍半印本蘭亭序』の旧淡拓本が、二玄社の原色法帖選や中国法書選に採用されている。巻頭の『宋拓神龍本蘭亭序』は、墨誌で数回紹介した。近年東博で開催された「王羲之展」には、出展したので目にされた方も多いはずである。『黃庭經』を取り逃がしたが、不思議な縁で『蘭亭序』にたどり着いた話である。まるで「塞翁が馬」である。

※図版の印影は、当時に出された『蘭亭印譜』を用いた。

伊藤滋(書齋名・木鷄室)

書道芸術院 令和の群像 (2020)



「沈黙」

林 春 雪 書

令和元年古稀を迎えた地元画家との二人展の企画が町の文化振興会から持ち上がった。山口県秋吉台国際芸術村で開催された彼の個展『永遠のみどり』に強い衝撃を受け、会場を二分して展示する予定を、絵画から私が受けた感動をイメージして大字書で表現したいと提案した。故恩地春洋先生は、書の本質を模索し熟考された際、書は言葉や映像と助けあって存在すると「悲」一字で怒りや悔しさ・諸々の感情を見事に現されていたことが今も心に残っていたからだった。しかし書と絵画が融合できるかどうかは、全く自信がなかった。

過去8回の書展の来場者は書道関係者と少なからず書に関心がある人のみだったからだ。同世代の彼は、ヒロシマという現実から受けた重要な意味を見い出し13年間悩み抜いた末、人間の使命として顔の無い「肖像」を表した。
(上掲図版・左作品) 私はこの作品に「沈黙」という字を起上げた。

9日間に及ぶ二人展が開幕した日、私の心配は全く杞憂であった事に胸をなでおろした。

「瀬戸内海の島から」



林 春 雪

絵画関係の方が、書に興味をもって初めて見る大字書が感情移入さえできる、墨の濃淡や滲み、用具や書き方などを尋ねたり会場はとにかく良い空気に包まれた。又書を嗜む人々も絵に感動して、作品創作の意図や作品への思いを熱心に尋ね、是非広島や長崎で展覧会を企画したいとの申し出や、ヨーロッパの国々の巡回でも大喝采で受け入れられると大使館に交渉してくれた方まで現れた。國らずも会期中の11月23日にローマ法王が来日し長崎広島を訪れ、核兵器廃絶のメッセージと永久平和への祈りを捧げたとのニュースも会場を沸かせた。柔らかな感性を持った未来を担う幼稚園児や小学生の輝く瞳を目の当たりにし、喜びを隠しきなかつた。

平和を希求する熱い思い、原爆という暗い悲しい過去を背負ったヒロシマの歴史を決して忘れてはならない。書と絵が響きあい、作品を通して、平和の尊さや命の大切さを一人一人の胸に刻んだと自負する。書の持つ力と、芸術アートの力を信じて、瀬戸内海の島からの発信、少しずつ人から人へ広がりを見せてくれると祈りながら…。

令和元年古稀を迎えた地元画家との二人展の企画が町の文化振興会から持ち上がった。

山口県秋吉台国際芸術村で開催された彼の個

展『永遠のみどり』に強い衝撃を受け、会場を二分して展示する予定を、絵画から私が受けた感動をイメージして大字書で表現したいと提案した。故恩地春洋先生は、書の本質を模索し熟考された際、書は言葉や映像と助けあって存在すると「悲」一字で怒りや悔しさ・諸々の感情を見事に現されていたことが今も心に残っていたからだった。しかし書と絵画が融合できるかどうかは、全く自信がなかった。

過去8回の書展の来場者は書道関係者と少なからず書に関心がある人のみだったからだ。同世代の彼は、ヒロシマという現実から受けた重要な意味を見い出し13年間悩み抜いた末、人間の使命として顔の無い「肖像」を表した。
(上掲図版・左作品) 私はこの作品に「沈黙」という字を起上げた。

9日間に及ぶ二人展が開幕した日、私の心配は全く杞憂であった事に胸をなでおろした。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

毎日書道会書道図書館企画

「書の時間」番外企画

田中親美・縣治朗・大貫泰子の仕事展

このほど毎日書道図書館に、田中親美先生の孫にあたる大貫泰子氏から、貴重な木版印刷による古筆の複製が寄贈されたことを機に特別展示が行われることになった。(本誌別掲案内)

田中親美(しんび) 日本美術研究家・日本画家・書家。本名茂太郎。冷泉為恭(れいぜいためちか)の従弟田中有美(ゆうび)の長男。絵を父に、書を多田親愛に学ぶ。親愛のもとで古筆の模写に接し、1894年(明治27)初めて「紫式部日記絵巻」の模写に従事。以後、収集家吉田丹左衛門、益田孝(鈍翁)らの後援を受け、大口周魚らの知遇を得て、「源氏物語絵巻」「本願寺三十六人集」「元永本古今和歌集」「平家納経」「久能寺経」の復元模写を完成させた。また古筆の名品を集めた「月影帖」、手鏡「ひぐらし帖」、さらに「佐竹本三十六家仙」の刊行と、平安朝美術の復元・鑑識・普及に努めた。1959年(昭和34)芸術院恩賜賞受賞。1975年(昭和50)100歳で没した。(日本大百科全書 島谷弘幸より)

田中親美(しんび) 县治朗(けいじろう) 田中親美・縣治朗・大貫泰子の仕事展

85歳没。
大貫泰子(ひろこ)さんは縣治朗・信子のご息女で、田中親美・縣治朗の料紙技術を継ぐ方。現在90歳。以降田中の料紙の技術後継者は親族では大貫泰子氏お一人である。

オーフラ東京の壁面画、成田山新勝寺の襖絵なども制作した。1982年(昭和57)

親美のご長女信子さんの御夫君。田中親美父子に古筆、古画を学ぶ。「源氏物語絵巻」などに用いられている料紙との意匠・手法を研究し、同絵巻の完全な副本を制作。またホテルオークラ東京の壁面画、成田山新勝寺の襖絵なども制作した。1982年(昭和57)85歳没。

大貫泰子(ひろこ)さんは縣治朗・信子のご息女で、田中親美・縣治朗の料紙技術を継ぐ方。現在90歳。以降田中の料紙の技術後継者は親族では大貫泰子氏お一人である。

今回の展示は毎日書道図書館に收藏された「西本願寺三十六人集」「元永本古今集」「本阿弥切」「平家納経」「手鏡瑞穂帖」「藍紙本万葉集」等8種の他、大貫泰子氏所蔵の上記3氏制作の複製10数点が展示される。さらに「料紙の作り方」などの貴重な資料も展示される予定である。

・会場 アートサロン毎日(竹橋)
・会期 9月16日~30日(平日のみ)
11:00~16:00

監事、参事、評議員(今回指名大作10名含む)、名誉会員、参与会員(選抜)、審査会員選抜計116名
・審査会員候補公募入賞者(50名) (出品点数308点、173名)
・秋季菊花賞(10名) (秋季菊花賞(10名))

書道芸術院秋季展 開催へ

書道芸術院秋季展 開催へ

新型コロナウイルスの蔓延の影響厳しい中、本年の秋季展が開催される。

審査会員からの選抜作家(財団役員含む)、一昨年より始まった新企画「書道芸術院の書 現代詩文」展17人の中堅精銳作家による意欲的な作品、更に審査会員候補からの公募作品は厳正な選考を経て入賞作品(秋季菊花賞・同俊英賞)合わせ180点余で華々しく開催される。研究会、表彰式、祝賀懇親会などは全て中止となつた。ご理解を。

・会期 10月6日~11日

・会場 セントラルミュージアム銀座
アートサロン毎日(17人展)

・セントラル会場 財団顧問、理事、

漢字 新井 赫扇 伊藤 明秋	柳 隆扇 知野 久美子
現詩 伊藤 和雪 井ノ口 春峰	かな 知野 久美子
前衛 萩原 明春 木村 春翠	西山 紫玉
現詩 庄司 咲龍 平田 悅子	西山 紫玉
前衛 齋藤友香里 早坂 萌香	笠原 紫玉
前衛 坪井 中須 豊嶋 勝	早坂 萌香
前衛 前浜 裕香 浜野 永篁	井ノ口 春峰
前衛 高橋 佳子 木下 紗秋	笠原 紫玉
前衛 深田 幽春 明寿 谷恵	西山 紫玉
前衛 齋藤 長南 齋賀 清翠	西山 紫玉
前衛 麦沼 一恵 杏邑 舞夢	西山 紫玉
前衛 安藤 長南 齋賀 清翠	西山 紫玉
前衛 青木 菱沼 小野 紗秋	西山 紫玉
前衛 安藤 麦沼 菊賀 紗秋	西山 紫玉
前衛 酒井 栗原 神沢 芳雪	西山 紫玉
前衛 高橋 佐藤 岸 舞夢	西山 紫玉
前衛 和田 敬子 栗原 政舟 利苑	西山 紫玉
前衛 林 鈴木 近藤 石田 安藤 奎山	西山 紫玉
前衛 杉木 花雪 楊風 京子 岸 舞夢	西山 紫玉
前衛 一宏 桜紅 直美 桜紅 利苑	西山 紫玉

監事、参事、評議員(今回指名大作10名含む)、名誉会員、参与会員(選抜)、審査会員選抜計116名
・審査会員候補公募入賞者(50名) (出品点数308点、173名)
・秋季菊花賞(10名) (秋季菊花賞(10名))

かな基礎基本講座(4)

下谷洋子

かなの単体(2)

③結び



○…あける

- ↑の方向から筆を●で強く当てる
- 筆先を抜きあげる
- 結び目は丸くしない

結びの変形(結び目が上)

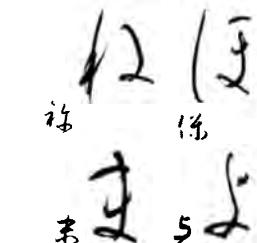


- 強く上に突き当てる●で筆先がねじれるように落とす

④当たり



- 結びの方向は異なるが「げ」と同じ



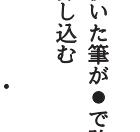
はと同じ

- で筆先をさし込み下に向かう



- 上から続いた筆が●で強く当たり紙背に押し込む

あと同じ



- 直線の連続になるように廻す
- ⑤回転



- で筆先を折りたたみ面を押し返す



- るよう逆す

基礎基本講座

現代詩文書基礎基本講座(4)

小竹石雲

【臨書から現代詩文書への展開】

①薦季直表風のひらがな表現方法

- 前号の臨書で説明した特徴をひらがなにも応用して半紙に六文字を書いてみた。



②薦季直表風の現代詩文書

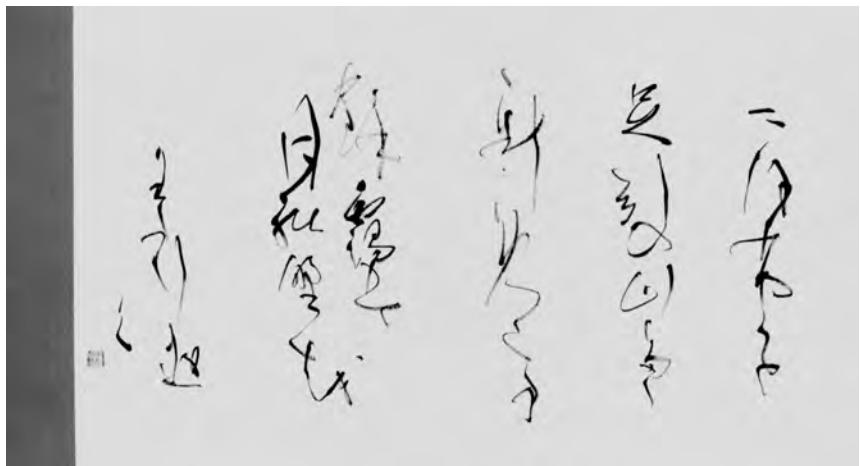


- 字形は扁平にし、やや重心を下げ、豊かさと重厚さを出すように心しづめて書きたい。
- 線質は簡素で点画はできるだけ単化し、高さのある運筆が大切。
- 字母を根底にして変化させないと俗っぽくなる。
- 緩急がないと平盤になる。
- 今回の作例は優しさ、愛情を感じさせる素材を選びあせらず丁寧に運筆した。

現代女流書100人展

特別展示＝現代女流書新進作家展

・令和2年7月22日(水)～8月2日(日)
・国立新美術館 展示室1D



〈夜靄〉

67×122cm



木村東舟

〈花の色や〉

129×89cm



加瀬澄春

165×66cm

齊藤理舟



〈冬の虹〉

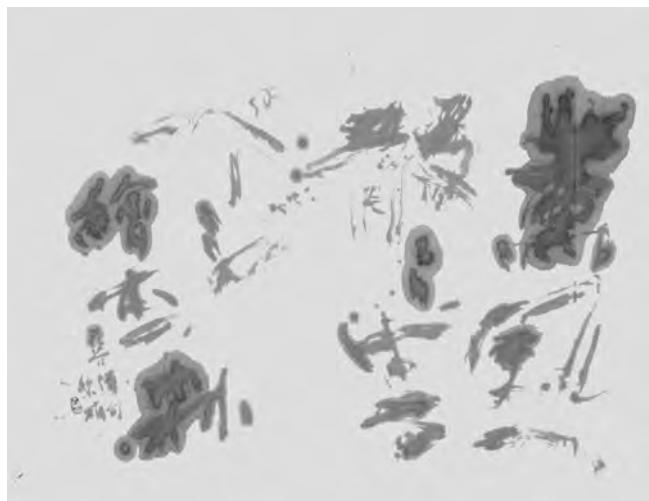
83×133cm

〈逢田空穂の歌〉



179×76cm

田中梨梢



〈花谷清の句〉

105×135cm

石田春窓



〈桜〉

105×135cm

〈知音〉



石田和子

180×79cm

〈争〉



北村白琉

179×79cm

〈沁（しみる）〉



稻垣小燕

105×135cm

〈燐〉



大井美津江

182×53cm

塚越
紅苑



〈全快〉

70×135cm

いのりつづける

千葉紅雪



90×120cm

角川源義の句



武山櫻子

178×59cm

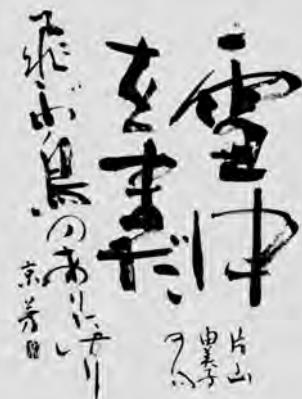
新進作家展

令和2年度 新審査会員作品

小野寺京芳（現）・遠藤紅杏（前）・千葉光泉（前）

小野寺京芳
(宮城)

「片山由美子の句」



小野寺京芳
(宮城)



遠藤紅杏
(宮城)

「始」



小野寺京芳（現）・遠藤紅杏（前）・千葉光泉（前）

この度は審査会員にご推挙頂き、誠に有難うございます。太田蓮紅先生をはじめ書友の皆様のご指導に深く感謝申し上げます。この作品は、前衛書を始めた頃の想いを重ねました。今後も自分の主張や情熱を造形や線の中に傾けていけるよう研鑽を積んで参ります。



この度は審査会員にご推挙頂き有難うございます。太田蓮紅先生をはじめ書友の皆様のご指導に深く感謝申し上げます。この作品は、前衛書を始めた頃の想いを重ねました。今後も自分の主張や情熱を造形や線の中に傾けていけるよう研鑽を積んで参ります。

（紅杏）



千葉光泉
(宮城)

「きらめき」

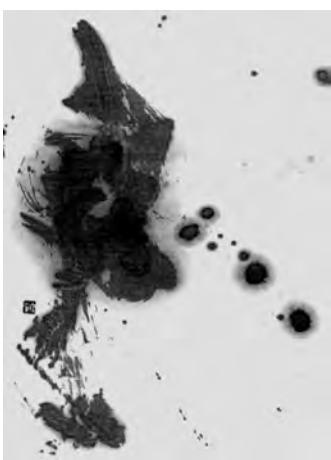
この度は、審査会員に昇格

させていただき誠にありがとうございました。

どの作品も「旬な物」と捉

え、一瞬一瞬が煌き、自身の思ひの全てを表現できるよう心がけ筆を走らせてています。

まだまだ未熟者ではございますが、師のご指導に添い、研鑽を重ね精進して参りたいと存じます。



（光泉）



※10月号でも引き続き、新審査会員の紹介をさせていただきます。

枯樹賦

(唐630年)③
褚遂良

食薇微流淪窮巷暨漫沒荆扉既傷
 桂落殊嘆寂寞淮南云木葉落
 長年悲斯之謂矣乃爲歌曰建
 章三月火黃河千里槎若非金谷滿
 園樹即是河陽一縣花桓大司馬
 同而歎曰昔年移柳依漢南今看

食薇。沈淪窮巷。既傷搖落。殊嘆變衰。淮南子云。木葉落。長年悲。斯之謂矣。乃爲歌曰。建章三月火。黃河千里槎。若非金谷滿園樹。即是河陽一縣花。桓大司馬聞而歎曰。昔年移柳。依漢南。今看

〈解説〉枯樹賦の真跡は宋代に失われ、現存しない。現在その刻本が『戲鴻堂帖』『聽雨樓帖』『玉煙堂帖』などに収められているのみである。『聽雨樓帖』本が最も精巧に刻されているとの評がある。褚遂良の書のかで、枯樹賦と雁塔聖教序に俯仰法による特徴ある筆使いを多く見ることができる。褚遂良は王羲之の手法を継承しつつも、俯仰法を交えたことで、線に響きや緊張感

を漲らせ、自然な動きを伴って暢達さを見せてている。中國では、初唐の頃から俯仰法の使用が盛んになった。国では、空海の風信帖と座右銘、嵯峨天皇の光定戒牒、橘逸勢の伊都内親王願文など「三筆」の名跡に俯仰法が顕著に認められる。「現代書道の父」と呼ばれる比田井天来(1872—1939)は、雁塔聖教序と唐太宗の温泉銘の研究から俯仰法の用筆を解明したと言われている。(編集部)

(掲載図版・75%に縮小)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨(押印のみ也可)

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 (A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可) (B. 小品の部—半切以上半切以内・全紙1/2(約68×68cm)以内も可(縦横自由)) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

石山切伊勢集
(元藤原公任)

③

かな研究部臨書課題

B.A.

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
別紙を裁断して貼付も可。半纏紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

B.B. 小品の部(半切以上・半切以内・金紙約68×68mm以内も可)(縦横自由)
△当該古筆の左記掲載部分以外も可。▽

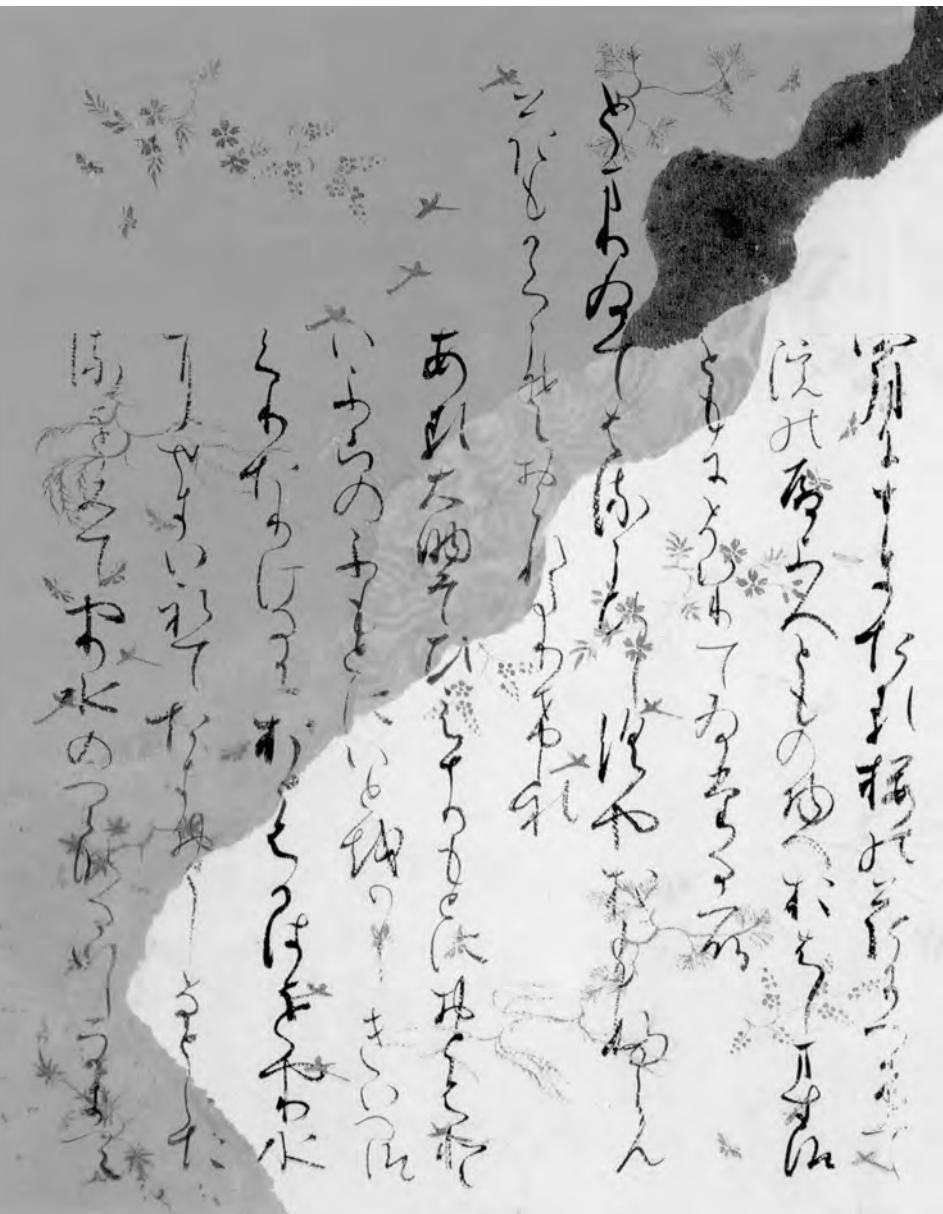
四月にさきたる桜の花につけて、
院の殿上人どもの物へおはします御
ともにまいりてゐたる所

とまりてはるこひしく眞
花もかくこそおくれたりけれ

ある大納言ひえさかもとに、おとはと
いふ山のふもとにいとをかしきいへつ
くりたりけるに、おとはがはをやり水

にせきいれただきおとしなどした
るを見て、やり水のつらなるいしにかきつく

(掲載図版・80%に縮小)



(梅沢記念館蔵)

*古筆は原寸(以上も可)で臨書しましょう。
○○臨(押印のみも可)
※落款を必ず入れる。

(編集部)

【解説】「西本願寺本三十六人家集」(西本願寺本)は、もと後奈良天皇の御物であったが天文18年(1549)正月、本願寺の証如上人(1516~1554)に与えられ、本願寺に伝えられた。藤原公任の撰になる歌仙36人の家集のうち、平安時代末期に書写された京都・西本願寺所蔵の古写本である。かなり早い時期に「室町切」(人磨集の切)・「尾形切」(業平集の切)・「糟色紙」(岡寺切(以上、順集の切)のほか「仲文集」および「兼輔集」)の断簡などが切断されたことが確認されている。昭和4年に「貫之集下」と「伊勢集」の2帖(石山切)が切断分割されたことは前述のとおりである。現在、粘葉装の冊子本37帖が寺に所蔵され、そのうち32帖が当初の原本で残りの5帖が後世の補写本である。国宝に指定されている。この「本願寺本」の筆者は田中親美氏(1875~1975、明治から昭和期の日本美術研究家)の研究によつて、当時を代表する能書20名の分担執筆と推定された。「西本願寺本三十六人家集」は、王朝貴族の高貴な美意識を駆使した貴重な遺品と言える。

習い方解説 (六)

半田 藤 扇

草貴流而暢
(孫過庭「書譜」)
(草は、流にして、暢なるを貴ぶ)

草書はすらすらとして暢びやか
であることが重んじられる。
書体の適性についていう。

二作対比シリーズとして掲載して
きました。最後に印に触れます。
今回、下駄印を押印(印材の中
間をへこませて2字の間を離して
作った印)

※上記の作は、潤渴・太細・リズム
や白と黒などの点に注意し、独
自の個性ある作を望みます。

※左記△参考作品△は、兼毫筆を
使用し造形は変えず安定した作
風に。

(注意点)

草・貴・流は、横線の変化を必
用とします。(角度・太さ)



草貴流而暢 よみ (草は、流にして、暢なるを貴ぶ)

書体=自由



(注意点)
草・貴・流は、横線の変化を必
用とします。(角度・太さ)

水遠山長
(水遠く山長し)
(李遠)

川の流れはどこまでも続ぎ、山
は長く連なっている。

楷書といつても歴史をひとく
と様々なものがあり、その流れを

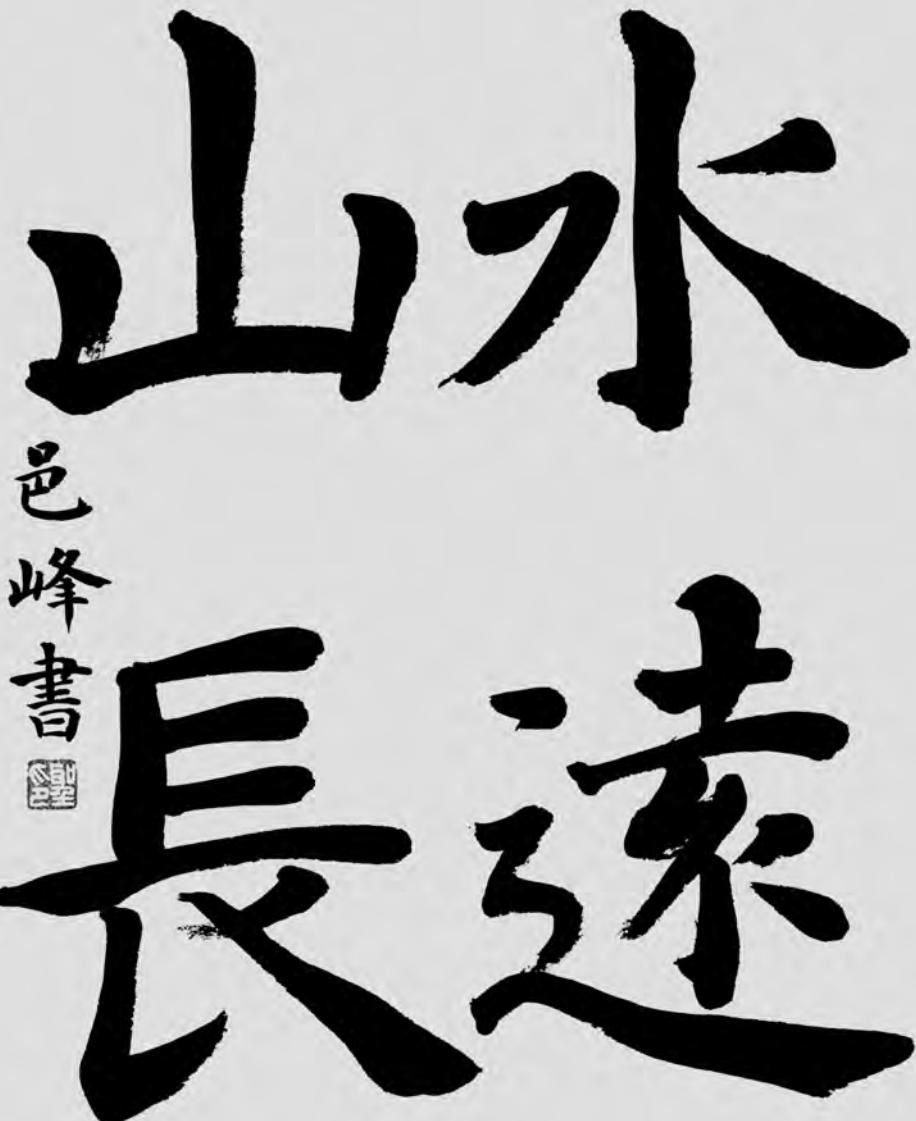
追っていくと非常に興味深く学ぶ
ことができます。一人の人物につ
いても若い頃から晩年に近いもの
までを見ていくと、その人の学習
態度や人柄が感じられて楽しいこ
とがあります。

今号では顔真卿の風を取り入れ
てみたいと思いました。彼の楷書
といえば顔法と称される特異な筆
法が頭に浮かびますが、若かりし
頃の書(王琳墓誌、郭虛己墓誌)
を見ると褚遂良や歐、虞の影響が
明らかに感じられます。顔法の原
点がここにあり、約四十年をかけ
て顔氏家廟碑のような完形成になっ
ていくのかと思うとワクワクとし
た気持ちで筆を執ることができま
した。

水遠山長 よみ(水遠く山長し)

邑峰書

書体=楷書



習い方解説 (三)

石井明子

吾木香すすきかるかや秋くさの
さびしきはみ君におくらむ
(若山牧水)

吾木香、薄、刈萱など、この上
なくさびしい秋草を、あなたへ
の贈りものにしよう、との意。

よ木香すすきかるかや秋くさの
さびしきはみ君におくらむ
(若山牧水)

よ木香すすきかるかや秋くさの
さびしきはみ君におくらむ
(若山牧水)

作品は字が良いことは勿論ですが、散らし方が大きな決め手になります。多くのスタイルを学んできたので、好きな一つのパターンでどの歌でも作品化できるようになっておきましょう。その後の創作の元になるので助かります。大字作品にも応用できます。

自ら、限界を決ることはあります。しかし、一人が考ることに無限の展開はありません。時間をかけて追求する中、少しづつの変化を繰り返して理想に近づけていく他はありません。

そのことを、試作の発表で不安いっぱいの私にお教え下さったのは恩地春洋先生でした。

よみ方

吾木香す(春)す(ハ)き(支)かるか(可)や秋く(久)さの(農)
さ(佐)び(悲)しきき(起)は(八)み君に(尔)おく(九)らむ(牟)

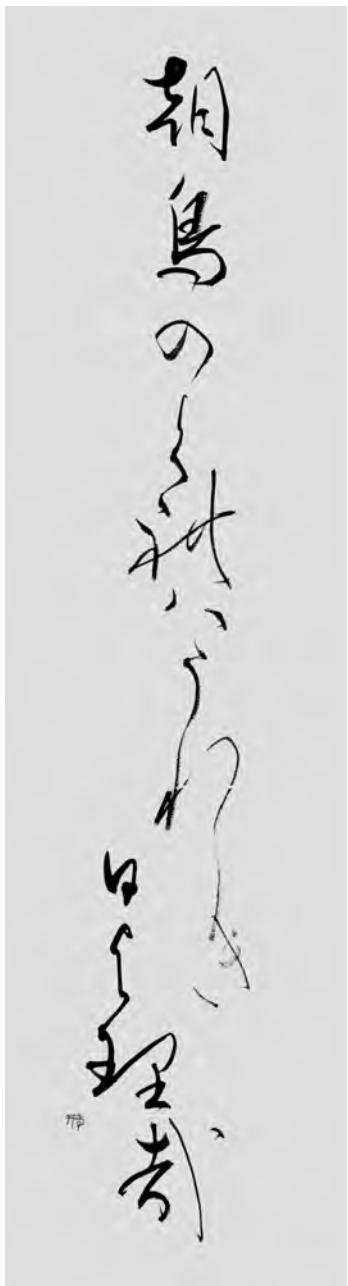
創作

*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。

かな規定 秀級以下【十月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真的和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



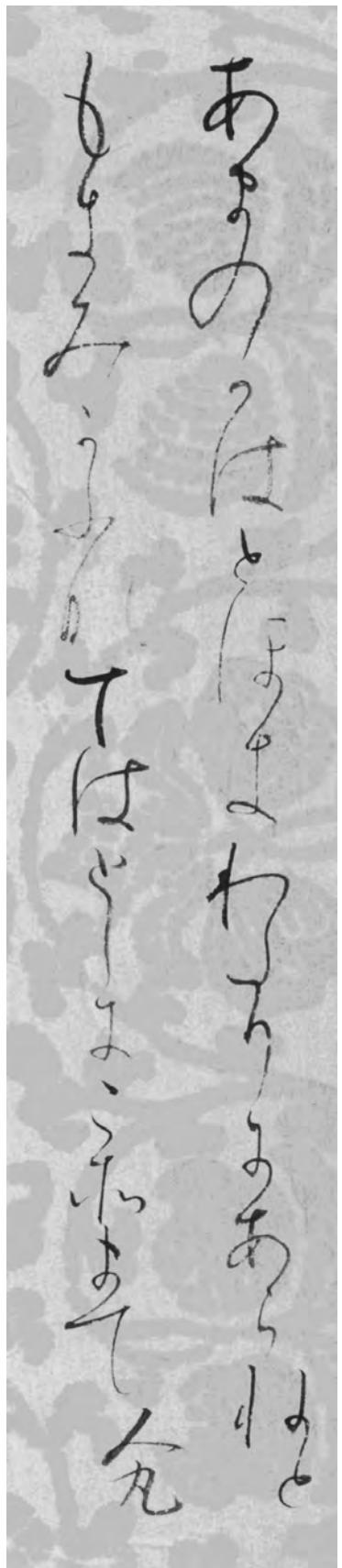
かな条幅規定【十月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

小島孝予選書

朝鳥の來ればうれしき日和かな
(正岡子規)

習い方解説 (三)

小島孝予



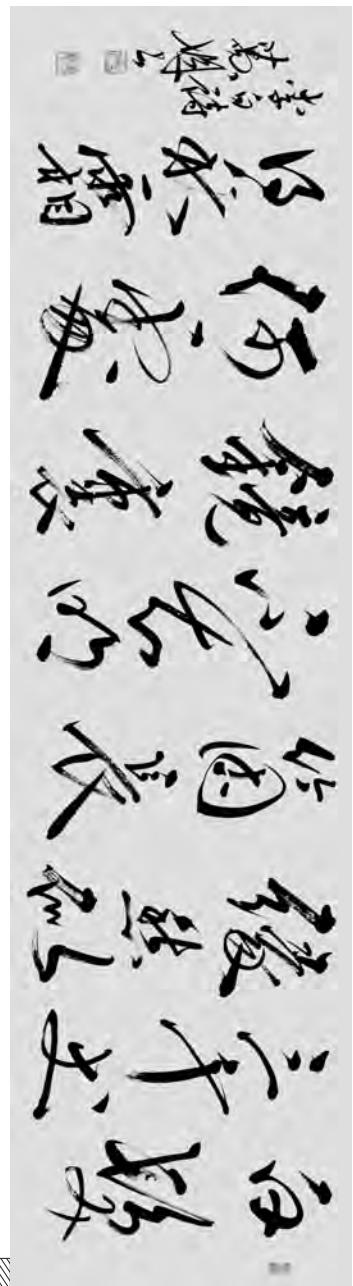
よみ方 朝鳥の來(久)れ(禮)ば(八)うれしき日和(与理)かな(哉)

創作

*タテ形式に限る

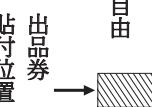
原文の文字ができるだけ活かして構成を心がけました。「朝鳥」は漢字そのままにし、2行目の「日和かな」を「日与理哉」とすることによって紙面上下のバランスを取りました。また「うれしき」は渴筆で伸びやかに連綿し、他は意連(実線によらない)によって全体の自然な流れが出るように表現しました。

種谷 萬城



白髮三千丈 緣愁似箇長 不知明鏡裏 何處得秋霜
(李白「秋浦歌」)
(白髮三千丈、愁いに縁りて箇の似く長し。知らず明鏡の裏、何れの処にか秋霜を得たる。)

書体=自由



今月は横形式。行書と草書を織り交ぜ、大小、疎密、曲直の変化と余白美を工夫した。王羲之・張旭・懷素・蘇軾・米芾・黃庭堅・董其昌・王鐸など個性豊かな書が参考になる。コロナ禍で種々の愁いが募り、「愁いに囚り、わが白髪は長く伸び、明鏡に映る髪には秋霜が降ったかのよう。」の李白詩を歌い、鏡の中に半白頭を見た。

*ヨコ形式に限る

漢字 条幅 規定 秀級以下 [十月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

小竹石雲 選書

習い方解説 (六)

小竹石雲

最後になりました。二行書きに挑戦してみてください。文字が多くなると全体の気脈の貫通と統一感がより重要になってきます。そのため、文字を支える主となる画とそれに添う画とで変化も生れます。最初はあまり奇抜にならないように王羲之の書を参考にしながらまとめてみるとよいでしょう。皆様も工夫してみてください。

書体=自由



樹影半窓明月 蟲聲一夜清秋
(樹影半窓の明月、虫声一夜の清秋)

広瀬舟雲

⑦ 、まあでに。 ⑧ 走つた。

、うた、どれ 距離は、

だけ走つたか。

裏切ら

残すはたつた

な、。

(野口みづき)

(高橋尚子)

舟雲書

◇用紙 市販ハガキまたは私製のハガキ大(4.8×10cm)の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

ご注意!! 用紙サイズ(4.8×10cm)を守って下さい。

高橋尚子は、女子マラソン二〇〇〇年シ

ドニー五輪で、野口みづきはその四年後のアテネ五輪で金メダル。練習に練習を重ねて全走行距離を足し算するとどれ程の距離を走り込んだか。後は五輪本番を全力で走るだけ。見事結果を出した闘志漲る二人の言葉を味わう。私たちに当てはめると、紙に練習して書いた枚数は裏切らないとも言えようか。

配置・配列を工夫し調和よく!!

特に落款「〇〇かく」の位置とバランスに注意してください。

参考作品

⑦ 、まあでに。 うた、どれだけ走つたか。残りはたつた

42キロ。(高橋尚子)

走つた、距離は裏切

らうやい。(野口みづき)

舟雲書

再呈

かしこ

初秋

渡る風が

再呈

かしこ

初秋

渡る風が

爽やかな秋空が心地よい季節となり

爽やかな秋空が心地よい季節となり

大隅晃弘

(楷書) 再呈 かしこ 初秋 渡る風が
(楷書) 爽やかな秋空が心地よい季節となり

(行書) 再呈 かしこ 初秋 渡る風が
(行書) 爽やかな秋空が心地よい季節となり

基本用語 「再呈」再信の場合に用いる。結びの「かしこ」
は主に女性が手紙文の結びに使用する。

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を (掲載手本90%に縮小)
◇用紙は普通版半紙横½(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
◇所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

ホープ作品

各部総評

NO. 711



現代詩文書部 特選 磐貝 清耀

奇抜さもなく飘々としているが
爽やかでリズミカルな運筆が心地
よく気品さえ感じれる。

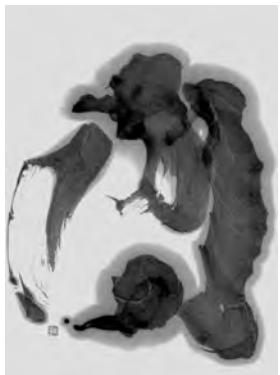
◎現代詩文書部總評 平かなの書き方
が粗末で作品の質を落としている。「かな」大事です。(素雪評)



前衛書部 特選 伊藤 聰

紙面一杯にスケール大きい淡墨
作品。墨色、潤渴など、調和し明
るい大らかな万全作。

◎前衛書部總評 文字を超える前衛
書の主旨を考え、創意工夫、楽し
い作品に期待する。(仙岳評)



ペン字部 師範 石毛 喜蘭
太めのペンを用い豊潤な温かみ
のある線見事。大らかで安定した
運筆格調高い作品となつた。
◎ペン字部總評 美しい字形の作
品が多かつたが、字間・行間など
の全体のバランスに注意して制作
してほしい。(仙草評)

(仙草評)



漢字条幅部 師範 細野 遊山

後漢の摩崖碑を連想させる雄大
な隸書。線に深味があり、「河」
字の長い縦画の波勢が目を魅く。

人類が新型コロナウイルス
感染症に打ち勝った証し
として東京大会を完全な形
で開催するため緊密に連携
していこうと確認。喜蘭
かわ

かわ

かな部 師範 永井 伯泉

心地よく眺めていられる美しさ
は過不足ない表現の魅力であろう。
リズム感があり静謐で床しい。

◎かな部總評 ちらしの美しさは
余白美でもあるので过大過小の字
粒には注意したい。騒々しい表現
は厳に慎みたいもの。(明子評)



◎漢字条幅部總評 上級は多様な
創作が試みられ、意欲的な作が多
かった。毎度の事乍ら、誤字には
充分注意。字典活用。(萬城評)

紙に合わせた墨色で、自然に滑
らかにリズムが流れ白眉。速筆な
で、運速の工夫を極むと艶が出る。
◎かな条幅部總評 変体がない所
(そ)に注意。また、変体がある使
方に勘違いされている文字もある
ので、十分確認されたい。(洋子評)

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 下谷洋子 田村鄭雲 三浦鄭街 倉林紅瑤

小品の部



熊谷青山書

135×35cm

◆大胆な作品構成と意表を突いた墨色にびっくりです。図版がカラーで無いのが残念。更なる変化を。(鄭雲評)

(鄭雲評)
◆正確な美しい文字で淡々と自然なリズムを醸し出す。二段構成で落款も適切な位置に配されている。

漢字 (青山) 熊谷青山「作善」

臨書 (大雲) 江本興舟 「石山切伊勢集」



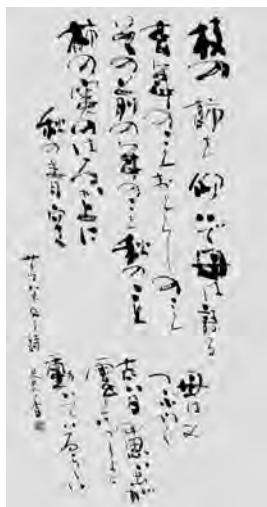
24×86cm

部分拡大

江本興舟臨

◆鋒先の弾力を生かし、自然に穏やかに流れる。紙質の関係で潤筆がやや重いが、渴筆の切れが美しい。
(洋子評)

現代詩文書 (蒼香)
高橋蒼香



67×34cm

高橋蒼香書

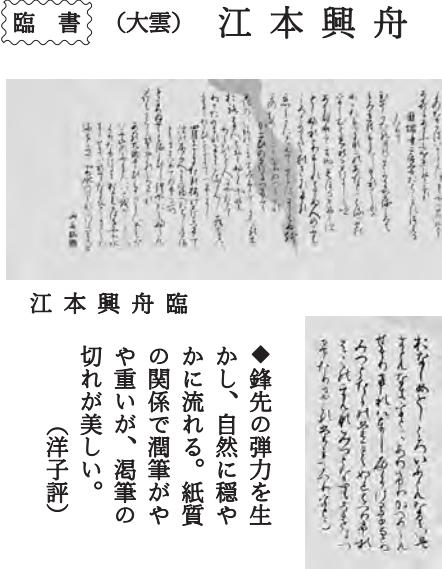
「サトウハチロー詩」

◆骨力ある細線と潤渴の変化が魅力。空間処理が巧みで、小品ながら紙面全体に緊張感が漲る快作。
(紅瑤評)

本田美雪書



135×35cm



前衛書 (蓮紅)
本田美雪
「和予」

創作の部(39点)	漢字 - 6点	かな - 3点	現代 - 21点
臨書の部(34点)	漢字 - 28点	かな - 6点	前衛 - 9点
候補者			

73点

〔特選候補者〕

〔創作の部〕

〔漢字〕

〔現代詩〕

〔前衛〕

〔漢字〕

〔現代詩〕

〔前衛〕

〔漢字〕

〔現代詩〕

〔前衛〕

〔漢字〕

〔現代詩〕

〔前衛〕

〔漢字〕

〔現代詩〕

〔漢字〕
澄春
たか
井戸
白井
永萱
惠仙
〔漢字〕
墨縁
大雲
柿沼
彩香
花埜
高橋
奎媛
白珠
西山
葵龍
梨秀
〔漢字〕
八街
大日
向幽
香泉
真理
子
秋湖
麗子
春綠
真理
千葉
渡辺
明石
薄田
東綏
宗苑
千葉
「かな」
猪又
理扁

大作の部

〔臨書〕(清月) 境野和子「石山切伊勢集」



◆字形やリズムも破綻がない上に墨量の使い方が絶妙。料紙に慣れているからこそ出来手法で見事!

(洋子評)

境野和子臨

53×180cm

部分拡大

〔前衛書〕(青蓮社)
大町菜円
「SUN」



大町菜円書

180×60cm

◆何より墨色が妙な変化を与え、印象的な作。柔らかな滲みが微妙な構成の流れも自然。空間をよく捉え余白も美しい。

(紅瑠評)

〔臨書〕(千葉)
竹浪叙舟
「枯樹賦」



竹浪叙舟臨

◆枯樹賦を2×6尺に11行綿密に書かれた力作。呼吸乱れず、抑揚も効いて完成度高く、品性ある臨書作。

(鄭街評)

◆何より墨色が妙な変化を与え、印象的な作。柔らかな滲みが微妙な構成の流れも自然。空間をよく捉え余白も美しい。

〔部分拡大〕
殷仲文風流儒雅之
唐貞松青牛文始
殿落實睢陽之國
反覆鬱勃頤魚

◆淡墨の滲みが変化を生み、直曲の組み合わせが緊張感を増す。大字部に不自然な線と形有り、要注意。(鄭雲評)

〔現代詩文書〕(炎佳)
佐藤華炎
「智子の言葉」



118×60cm

佐藤華炎書

◆枯樹賦を2×6尺に11行綿密に書かれた力作。呼吸乱れず、抑揚も効いて完成度高く、品性ある臨書作。

(鄭街評)

創作の部(34点)	漢字——3点
〔前衛書〕(19点)	かな——3点
〔臨書の部(18点)	現代——9点
漢字——15点	かな——3点
〔漢字〕(15点)	漢字——15点

総出品点数
52点

〔特選候補者〕
(創作の部)

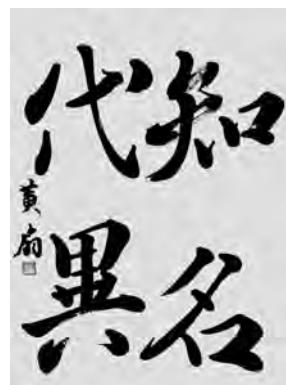
〔漢字〕
(創作の部)

〔漢字〕
(臨書の部)

漢字研究部
(枯樹賦)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



浅野黄扇

漢字研究部特選 浅野黄扇

運腕大にして線に明るさが感じられると共に、その線が余白を生かしています。又、緩急の変化もある洗練された線質に加え、用筆も良く、結体も安定した秀逸の臨書作品です。

◎漢字研究部総評

書きなれた古典とみえ、多くの佳作に出会うことが出来、嬉しく思ひながら審査させていただきました。

鋭い線で表現された秀作が多い中、筆を引きずった様な甘い線の作品も少なからず見受けられました。多分筆の角度に注意すれば切れの良い線が表現出来たのではないかと考えます。

今回の臨書には殆んど誤字が見当らなかつたことは素晴らしいと思いました。

太守東陽	出為東陽太守	三徃植此樹	東陽山崖裏
太守東陽	太守東陽白鹿	太守表裏	東陽山崖裏
名代異時	貞松	出為異時	太守青牛梓
白鹿	東陽太守風流	移出異時	東陽青牛梓
不樂	貞仲文代異時	移出	山崖裏
而半死	移出為	名代異時	山崖裏
佳白千鈴佳琴代子羊秋風波燐	京信玉翠恵紅理花代葉朋子雨	翠富紗竹雅知士雪子羅壽悠子	明和芝直寛美香香香子子梢

かな研究部
(石山切伊勢集)

選評 佐藤希雲

今月のホープ作品



田畠寿美子

○かな研究部総評 基本をよく観察し、丁寧に書かれている。行末の位置が乱れる作品が多い中、行の配置のバランスが上手に取れている。さらなる精進を期待します。

種先が効いている線は美しく見えます。墨がなくなつて筆の腹だけで書くと見苦しくなります。

筆墨硯紙の研究も大切と思います。



恵美清
子悠耀

松春永
月華簞

と佳和
子月子

愛嘉幹
石江生

			かな研究部成績表				
八有水清椿京玉秀	松大千八書青白上天白竜菊姪大春か葉雲街游蓮鷲泉璋鷲泉月和豈	澧た水澧清石澧う紅風					
街秋海月翠橋松作	青猿種黒石小沼江早中大高新区安礎青字浜根深境松小飯田木渡谷柳渡寺木	春か海春月習月川	特選				
井石飯飯安東青木ト美	田原木木口部里木橋井藤貝木田野丸林高畠壽美子	田畠寿美子					
芝洋洋ミ代花葵美子	玉簾森竹翠よ奎茉星歩雅惠美清松春永みみ佳和愛嘉幹子	江生					
雲子子子子子子	竹右城葉徑こ心悠朗子佳泉子悠月華簞子月子石江生子						
高光崎佳	こ京明東黎八高澄蓮わ前高春A玉や青澄書菊八大蕙颯蒼春千た誠澄八 だ橋漢伯明街崎春紅か橋崎汀I松ま峰春游月生雲書葵陽汀葉か和春街						
飯島みりな律子江	吉吉吉山山村松増本星別春二渡寺田田高高庄島篠鷲坂後込小菊梅鶴岩井野田本中上浦田田野村山通子原中橋橋司	井田山本藤山原地津澤瀬口佳					
仙文紅台筆瑠入	無椿高蘭桜硯中千長上大大長上東幸上白大もた高天甲旭大春高洞潮蒼高たこ蒼う祥蘭樹正中澄紅華誠 門翠崎鼎草水川葉月泉雲阪月泉向扇泉硯阪くか宮真璋和老拙汀崎書音原崎かだ陽る紫蘭川原						
熱青藍海木澤	山矢森守宮三松増本堀廣平瀧笛野根西富戸樋鶴武田高鈴鉢佐酒酒斎齋小小熊木北川加葛宇岩板石中嶋村崎藤島田島井垣田島登						
桃知白	清砂登直津草蒼翠佳和幸美だ陽芝幸正葉局藤雪雅一代松陸恭陽淳知花杏舞加晃み宏順志優翠恵日麻昌竹楠代青甘麗子						
香高誠扇澄A	明蘭正八硯春竹澄芳う黒墨秀童文附英高伏華東梓小秀澄華澄青明玉大も秀梅渡高A澄久花旭堺岩正洞も澄書崎和筆春I漢鼎華雲天美春蘭の明花畠泉筆中峰崎華仙向江映韻春祥春蓮漢藻阪く畠桃辺井I春賀舞老						
須神新新新清島島柴七佐佐櫻齋斎小小吳熊國吉北岸菊菅川神加金加小小荻荻岡大大大梗生植岩伊伊石石石五安新阿寶宮谷條行水田田條々田藤藤實林口池谷峰瀬村地野元尾納杉藤瀬野澤原田部野西沢田方田削藤藤田崎川十井藤井天坊洗草							
一玉翠三瑞紀美貴洋裕和智翠江裕桃智直豊紫琴彩欣民恵静茱美順紫雅夏朱和玉良藤鶴一淳和美紅祥悦詠悦正津佳							
遷昌竹華幸己祥や華竹	松春菊こ生A白若誠有澄土椿京蘭正一蘆上北泉書洞上堺泉秀惠桂秀玉若桜幸旭竹玉紅土正外苑美仙扇不紫ま仙美村汀月だ大I露松和秋春翠橋鼎華弦澤泉原会泉書泉会畠石月韻川松草扇老扇川瑠						
127吉横山山山山山山	八森茂富宮宮牧堀古藤福深平春吟林林早長萩仁永中中利辻第田谷竹高高高高高関須鈴杉杉名田山本本根田口木木野崎川野江原田堀山山岡尾坂谷原木田井村村江守井村脇内原橋橋井根田木浦氏						
名翠蘭美梅美	律雪紀龍翠津英洋清幸美し里流清優つ聰ほ雅美萌洋光時伯寛ヶよ佳洋宏恵晴智貞美沙真小代香利祥幸略綾舟楓香子京子翠舟博芳枝明子次泉子子萌源洗子子春の子子香翠子堂子泉子子理子子石翠子子好風薰秋子舟子風子						

●篆刻

【十月十五日締めきり】

〈出品規定〉審査会員を含む、誰でも出品可。

①摹刻

(ア)課題による語句

(イ)原印自由

(出典の際、原印のコピー添付)

②創作 語句自由

〈原印コピー〉



鄧石如(清)

「一日之跡」

- 印面の大きさは3.4cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横1/2の大きさに切ったものも可。
- 創作、摹刻とも応募は一人一点。

9月号 摹刻課題

<特選>



「展如」

◎篆刻部総評

原印の雰囲気を佳く捉えて
いる運刀も確実です。更に精
進を。

今月は応募作品、全体に幾分、低調でした。特に摹刻に於
いてはそれが顕著でした。摹刻は古典習得の基本です。次回に
期待します。

(大峰評)



「晴耕雨讀」

摹刻

711号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

創作

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
東京都千代田区
東神田一一一六一七
東神田プラザビル三階
101-0031

公益財団法人書道芸術院
電話(03)3861-1954
FAX(03)3861-1957
10部以上は
送料免除

お問い合わせ、ご連絡は、
月曜日～金曜日九時～十七時の間に
お願いします。(土・日・祝日は休み)

送 料

1か月の購読部数が
1部～9部までの1回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円

令和二年八月二十五日印刷
令和二年九月一日発行

定価

一部

七五〇円

発行人

辻元洋一(大雲)

編集兼

一(大雲)

アーティスト

印 刷

小沢写真印刷株式会社

発行所

公益財団法人書道芸術院

印 刷

リソングラフ

電話

(03)3861-1954

FAX

(03)3861-1957

振替

00150-41350558

ホームページ

http://www.lmcs.co.jp/shohei/